



学校教育目標

か み や ま

ここに学び ここで遊ぶ ここがふるさと上山の子

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamiyama/>

進歩する「情報化社会」の中で

校長 窪田 剛久

夏休み以降、関東地方では記録的な長雨に見舞われました。東京都心では20日以上連続で雨が観測され、9月上旬の関東甲信地方の日照時間は平年の約3割、降水量は平年の365%を記録したそうです。千葉県では8月中旬に記録的な豪雨が発生し、広範囲に浸水被害をもたらしました。一方で、西日本では記録的な猛暑となり、海外でも熱波や森林火災、氷河崩壊による災害が報じられました。こうした極端な気象現象は世界各地で発生しており、その背景には地球温暖化の影響があると考えられています。

東京大学大気海洋研究所などの研究グループは、この夏の西日本の高温について「アトリビューション」と呼ばれるコンピューターを活用した分析を行い、地球温暖化によって同程度の高温の発生頻度が約2倍になったと発表しました。私たちは今、これまで経験したことのない規模の気候変動の時代を生きているのかもしれません。

近年は、このような気象現象の分析や予測にもコンピューターやAIが活用されています。しかし、それらを駆使してもなお予測が難しい現象は少なくありません。例えば、気象庁はスーパーコンピューターを用いた数値予報シミュレーションや観測データをもとに線状降水帯の予測を行っていますが、発生に関わる要因が複雑で未解明な部分も多く、十分な精度で予測することは容易ではないとされています。

このように、私たちは多くの事象に対してコンピューターやAIによる情報の蓄積や分析、予測を活用しながら生活しています。今や、それなしでは日常生活が成り立たないと言っても過言ではありません。しかし同時に、情報をそのまま受け取るのではなく、自ら考え、正しく判断する力も求められています。

最近では、AIの急速な発展に伴い、安全性や倫理面への懸念について議論される機会も増えています。世界的な開発競争が過熱する中、アメリカの企業『アンソロピック』の研究者が、リスクを軽視したAI開発に抗議して退職したそうです。また、AIが人間の意図しない行動をとる可能性や、その安全性についても議論が行われています。AIは私たちの生活や社会を大きく発展させる可能性を持つ一方で、その活用には適切なルールや人間による判断が欠かせません。

横浜市では昨年度末、第5期横浜市教育振興基本計画が策定されました。この計画では、「子ども主体の学び」の実現に向け、デジタル学習基盤の活用や情報活用能力の育成、生成AI等に関わる教育内容の充実、情報モラルや情報リテラシーの強化の重要性が示されています。

コンピューターやAIは今後も進化を続けていくでしょう。しかし、どれほど技術が発展しても、その示す結果を無条件に受け入れるのではなく、その根拠を確かめ、多面的に考え、自ら判断する姿勢の重要性は変わりません。

今求められているのは、情報を活用する力とともに、情報を見極める力を育てることです。ファクトチェックの視点を持ち、自分で考え判断する力は、これからの社会を生きる子どもたちに欠かせない資質の一つだと考えています。

本校でも、一人一台端末を活用した学習が日常的に行われています。しかし、子どもの本質は今も昔も変わりません。大切なのは、どのような教育環境を整え、子どもたちを自立した学習者として育てていくかということです。

変化の激しい時代だからこそ、本校ではICTを効果的に活用しながら、情報を主体的に活用し、自ら課題を見付け、考え、判断し、学び続けることのできる子どもの育成を目指してまいります。そして、情報に振り回されるのではなく、情報を活用してよりよい未来を創り出すことのできる子どもを育ててまいります。今後とも、上山小学校の教育活動にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

